

集落データ調査について

集落データ調査は、国勢調査の結果をもとに、県内の全集落の人口や世帯数の動向をデータで把握することにより、集落の現状や課題を明らかにし、中山間対策をはじめ、様々な施策づくりの基礎資料とするもの。

※昭和35年から5年ごとに実施

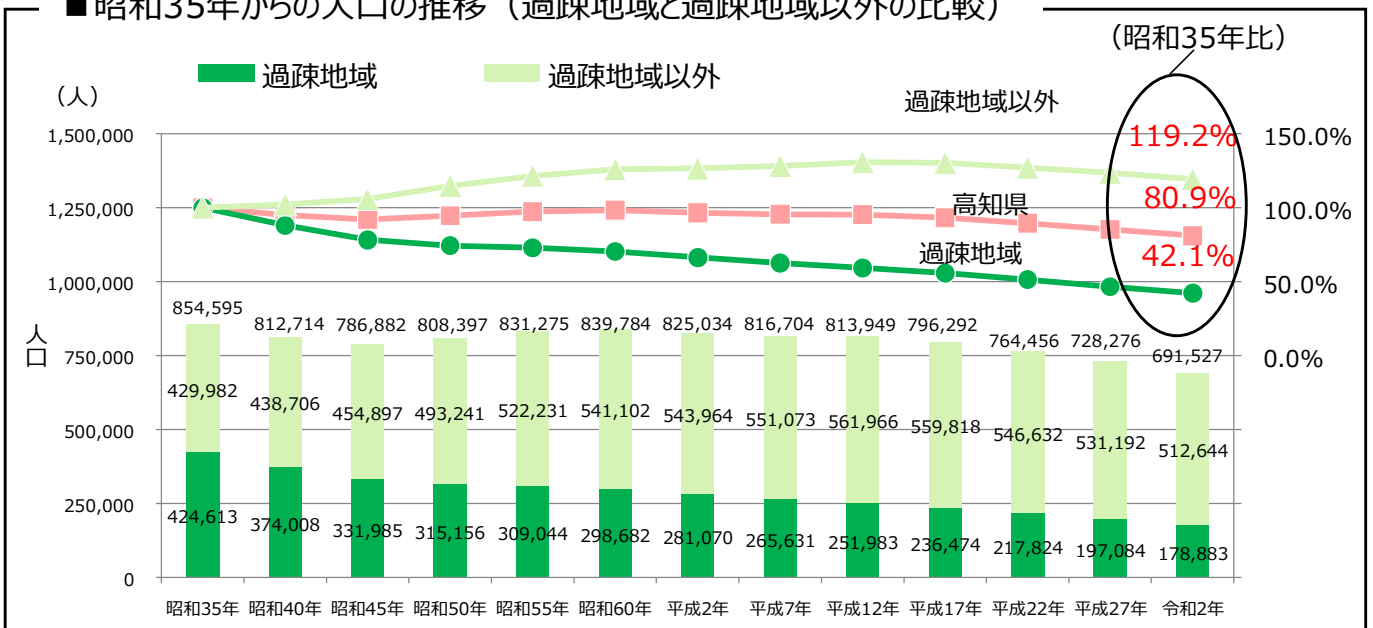
調査の結果

1 人口の推移と高齢化の状況

(1) 人口の推移

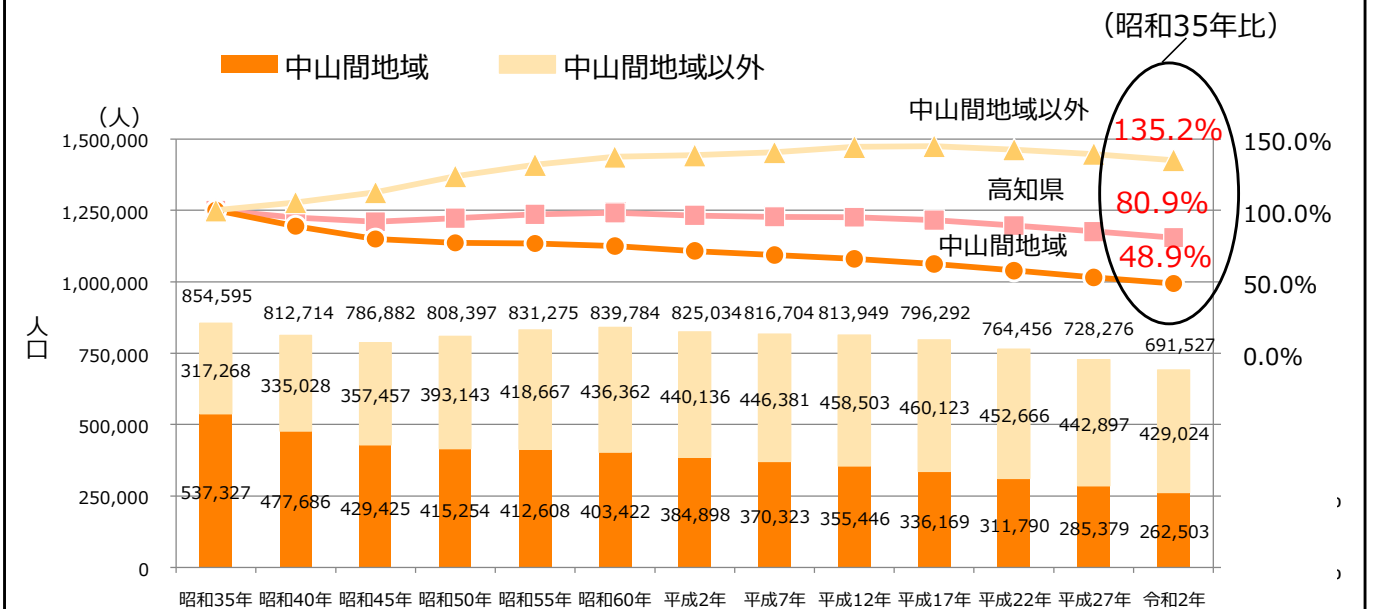
- 本県の人口は691,527人、平成27年と比べ36,749人（△5.0%）減少している。
- 過疎地域では、昭和35年以降、人口減少が続いている。（昭和35年比：△245,730人、△57.9%）
- 平成27年からの5年間でも、△18,201人（△9.2%）と県平均を上回る減少率となっている。

■ 昭和35年からの人口の推移（過疎地域と過疎地域以外の比較）



〈参考〉■ 昭和35年からの人口の推移（中山間地域と中山間地域以外の比較）

- 中山間地域では、昭和35年以降、人口減少が続いている。（S35年比：△274,824人、△51.1%）
- 平成27年からの5年間でも、△22,876人（△8.0%）と県平均を上回る減少率となっている。

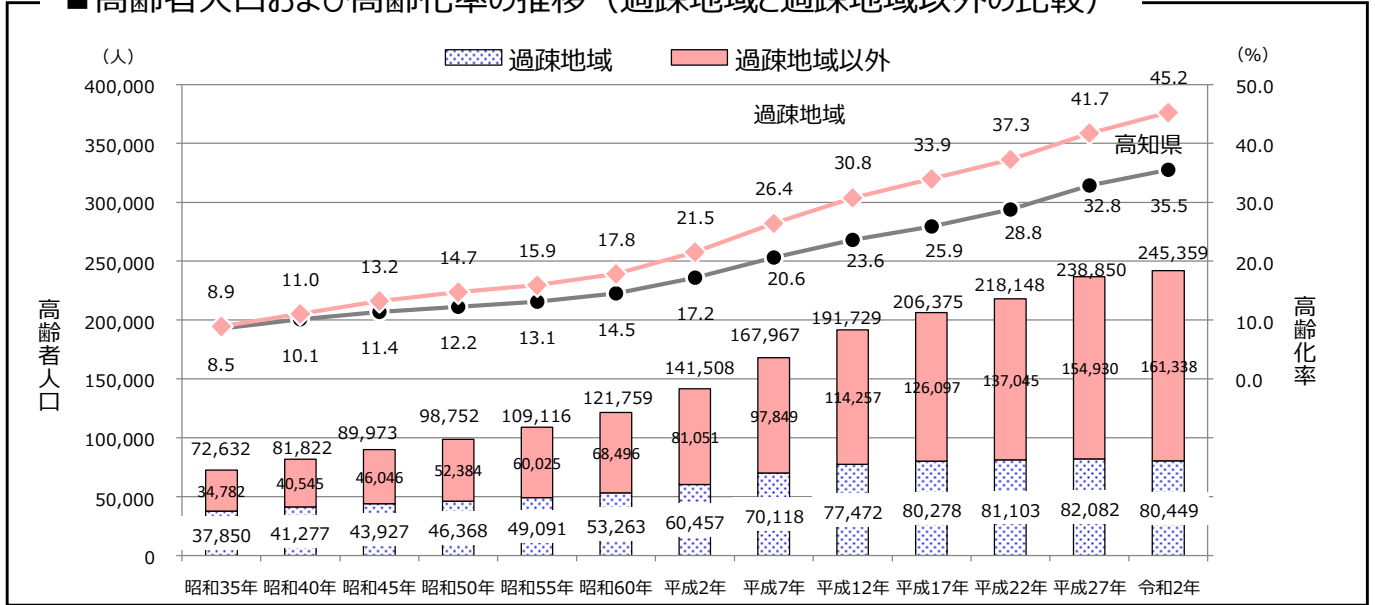


※中山間地域：地域振興立法5法の対象地域

(2) 高齢化の状況

- 県全体の高齢化率は35.5%で、平成27年と比べ2.7ポイント上昇している。(全国で2番目に高い。全国平均28.6%)
- 過疎地域の高齢化率は45.2%で、平成27年と比べ3.5ポイント上昇している。

■ 高齢者人口および高齢化率の推移 (過疎地域と過疎地域以外の比較)



※過疎地域の高齢化率は年齢不詳を除いて算出

2 集落の状況

(1) 集落数の推移

- 県全体の集落数は、2,522集落で、微減となっている。(平成27年比：△9集落、△0.4%)
- 昭和35年の集落数(2,630集落)と比較すると、この60年の間に108集落減少している。
- 前回調査(H27)に比べ増減数は、9集落減少(減少数16、増加数7)。
 内訳：減少 16 = 15 (人口がゼロになった集落) + 1 (統計上の集落区分の統合)
 増加 7 = 2 (人口が1以上になった集落) + 5 (統計上の集落区分の分割)

■ 集落数の推移

(単位：集落)

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
集落数	2,630	2,558	2,549	2,556	2,540	2,602	2,578	2,609	2,537	2,531	2,537	2,531	2,522
増減 (対前回比)	-	▲72	▲9	7	▲16	62	▲24	31	▲72	▲6	6	▲6	▲9

※県全体の集落数には旧高知市分の171集落を含む
 ※集落数は、統計上の集落区分の統合、分割による増減を含む

(2) 集落の人口増減

- 平成22年から令和2年までの間に、人口が増加した集落は250集落(10.7%)、人口が減少した集落は2,091集落(89.3%)となっている。

■ 集落の人口増減率別分類

(単位：集落)

	平成22年～令和2年		
	集落総数	減少集落数	増加集落数
高知県計	2,341	2,091	250
中山間地域	1,891	1,724	167

※旧高知市分の171集落を除く
 ※集落の統合や分割により経年比較できない集落(10集落)を除いているため、(3)の集落数と一致しない
 ※人口が増加した集落数には、増減に変化がない集落を含む

(3) 集落の世帯数の推移

- 世帯数が19世帯以下の集落は、745集落で、平成22年から令和2年までの間に94集落(+14.4%)増加している。
- 平成27年からの5年間で、世帯数が19世帯以下の集落は、51集落(+7.3%)増加している。

■ 世帯数別集落数及び割合

(単位：集落、%)

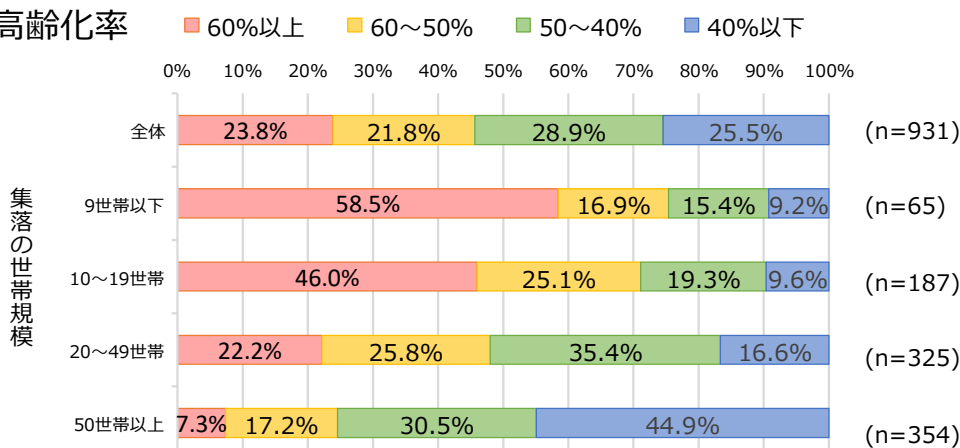
	平成22年		平成27年		令和2年	
	集落数	構成比	集落数	構成比	集落数	構成比
全体	2,366	100.0	2,360	100.0	2,351	100.0
19世帯以下	651	27.5	694	29.4	745	31.7
9世帯以下	246	10.4	288	12.2	324	13.8

※旧高知市分の171集落を除く

〈参考〉世帯数別の高齢化率

- 集落の世帯数別に高齢化率をみると、小規模な集落ほど高齢化率が高い傾向にある。
- 特に19世帯以下の集落では、高齢化率が50%以上の集落が7割を超えている。

■ 世帯数別の高齢化率



※高齢化率が把握できる集落のみで比較 (n=931)

参考 集落の世帯数別でみる集落実態調査の結果

■ 集落の将来像 (集落の世帯数別)

問 今後 (おおよそ10年後)、この集落がどのようになっていると思いますか。 [代表者聞き取り調査]

<H23> ■ 集落の一部又は全部が消滅 (red)
 ■ 集落全体で衰退 (yellow)
 ■ 今より活性化又はこのまま変わらない (blue)
 ■ 無回答 (grey)

<R3> ■ 集落の一部又は全部が消滅 (red)
 ■ 集落全体で衰退 (yellow)
 ■ 今より活性化又はこのまま変わらない (blue)
 ■ 無回答 (grey)



※R3は世帯数不明の222集落を除く

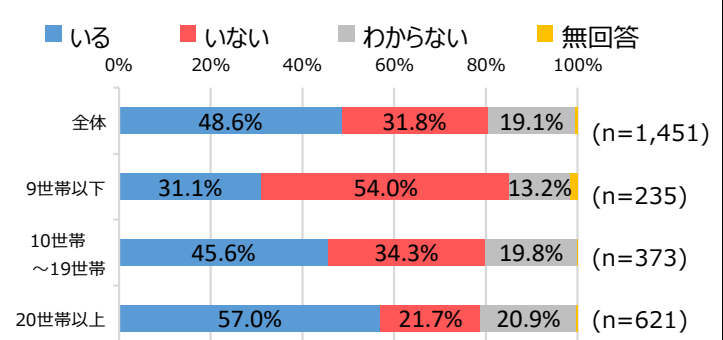
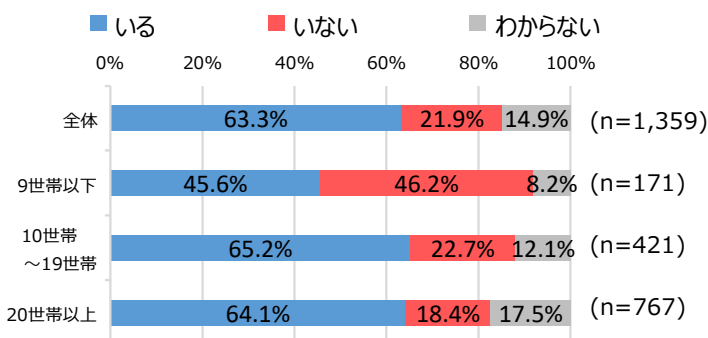
- 10年前の調査結果と比較すると、集落の世帯数に関わらず、「集落全体で衰退」と回答した割合が増えている。特に、10~19世帯で「集落の一部又は全部が消滅」「集落全体で衰退」と回答した割合が増えている。
- 集落の世帯規模を見た場合、世帯数が少ないほど、今後の状況について厳しく受け止めている傾向がみられる。

■ 後継者の有無（集落の世帯数別）

問 集落の地域活動の世話役の「後継者」は、集落内にいますか。 [代表者聞き取り調査]

<H23>

<R3>



※R3は世帯数不明の222集落を除く

- 10年前と調査結果と比較すると、集落の世帯数に関わらず、後継者が「いない」と回答した割合が増えている。特に、9世帯以下の集落で「いない」との回答が50.0%となっている。
- 集落の世帯規模で見た場合、世帯数が少ないほど、後継者が「いない」と回答した割合が高い傾向がみられる。

結果に対する県の受け止め

- ◆ 過疎地域では、大都市圏への人口流出などにより昭和35年以降人口減少が続いている。この5年間で県全体の減少率（△5.0%）を上回る9.2%の減少となっており、厳しい状況が続いている。（中山間地域での人口減少率（H27からR2）は△8.0%）
- ◆ 高齢化率についても、この5年間で3.5%上昇し45.2%となり、過疎地域の高齢化はさらに進んでいる。
- ◆ 県内の集落数は、2,522集落（△9集落、△0.4%）で、前回調査に比べ微減にとどまっている。一方で、集落内世帯数が19世帯以下の集落が増加しており、集落の小規模化が引き続き進んでいるほか、小規模集落の高齢化も進んでいる。
- ◆ また、令和3年度に実施した集落実態調査の結果では、小規模な集落ほど、今後の状況について厳しく受け止めている傾向や、後継者の確保に課題があることが確認できる。
- ◆ 一方で、こうした厳しい状況の中にあっても、この10年間で人口が維持・増加した集落が250集落（10.7%）、中山間地域においても167集落（8.8%）あり、産業振興計画や集落活動センターを核とした集落対策などの効果が随所に表れてきているものと思われる。
- ◆ このため、引き続きこれらの取り組みを土台として、新たに「くらしを支える」「活力を生む」「しごとを生み出す」の3つの柱と関連施策を推進することにより、あまねく中山間地域の活性化が図られるよう、全庁を挙げて中山間対策に取り組んでいく。
- ◆ このうち、「くらしを支える」「活力を生む」では、高齢化や人口減少が進む中であっても、地域に活力を生み出し、暮らし続けられる環境づくりの取組として、集落活動センターの取り組みに至らない集落の活性化やデジタル技術を活用した中山間地域の課題解決に取り組む。あわせて、移住定住施策や空き家対策を強化する等、新たな施策を効果的に組み合わせ、市町村とも連携してスピード感を持って取り組んでいく。